

【学 年】 小学校第 5 学年

【単元名】 流れる水のはたらき（9 時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
(3) ア 次のことを理解するとともに, 観察, 実験などに関する技能を身に付けること。 (ア) 流れる水には, 土地を侵食したり, 石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。 (イ) 川の上流と下流によって, 川原の意思の大きさや形に違いがあること。 (ウ) 雨の降り方によって, 流れる水の速さや量は変わり, 増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。	(3) イ 流れる水の働きについて追究する中で, 流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に, 解決の方法を発想し, 表現すること。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり: 「雨水の行方と地面の様子」

- ・ 地面の傾きによる水の流れや土の粒の大きさと水のしみ込み方をそれぞれ関係付けて調べる。

働かせる見方・考え方: 流れる水の働きを時間的・空間的な視点で, 条件を制御して調べる。

階	学習活動 (時間)	留意点
見 通 し を も ち	1 増水した川の様子を観察し, 雨水の学習を想起する。(1) 2 流れる水にはどんな働きがあるか土で作った山の斜面に水を流して調べる方法を考える。(1)	<b>内容のまとまりの見通しをもつ場面</b> ☞ 降雨により増水した川の様子を既習の雨水の学習と関連させ, 流れる水の働きについて調べるにはどうしたらよいか問う。
追 究 し て	3 斜面の傾きを変えて, 流れる速さによって土地がどう変化するかを調べる。(1) 4 同じ斜面を使い, 一度に流す水の量を変えて, 水の量によって土地がどう変化するかを調べる。(1) 5 流れる水の働きとして, 浸食・運搬・堆積についてのきまりを見つける。(1)	<b>自然の事物・現象に条件を制御して働きかける場面</b> ☞ 斜面の傾き (水の速さ) と流す水の量について, それぞれ変える条件と変えない条件を整理して, 見通しをもって実験を行う。 <b>結果をつなげ, より科学的な概念を形成する場面</b> ☞ 流れる水には浸食・運搬・堆積の働きがあることを実験結果から明らかにし, それぞれ水の速さや水の量が関係していることを見いだして理解する。
当 て は め る	6 川の上流と下流の石の大きさや形を調べ, 流れる水の働きと関係付けて考察する。(2) 7 長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害について, 流れる水の働きと関連付ける。(2)	<b>学んだことを生活に当てはめる場面</b> ☞ 実験によって明らかになったことが, 日常生活にも当てはめられるか問い, 川原の石を上流と下流で比較したり, 気象災害と関連させたりして考えられるようにする。

次単元へのつながり: 第 6 学年 土地のつくりと変化「土地の構成物と地層の広がり・地層のでき方」  
中学校第 2 分野 大地の変化